

ネギ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であり、窒素の吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤中残存養分は比較的強く制御できる。ネギはリン酸に対し、敏感に反応するため、堆肥施用とともに基肥に十分なリン酸を施用する。また、育苗期におけるリン酸吸収がその後の生育にも影響を及ぼすといわれているため、苗床における施肥にも十分に配慮する。なお、乾燥に対しては抵抗性があるが、過湿には弱いので、深耕して水はけを良好にするとともに根圏を拡大させる必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

連作するとネダニや土壌病害が多発するので、ユリ科作物の過度の連作は避ける。排水と通風を良好に保ち、病害虫の発生を防ぐ。育苗期には雨よけや防虫ネットによる被覆を行い、病害虫防除を徹底する。罹病株や害虫寄生株は本圃に定植しない。本圃では、病害虫の早期発見、適期防除を行い、化学農薬使用の低減を図る。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 2~3t/10a
化学肥料低減技術	基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下  有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%
化学農薬低減技術	B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草など) 育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など) 育苗期に被覆資材により雨よけ栽培を行う。 (対象：べと病など) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象：シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ) 性フェロモン剤による発生予察や誘殺を行う。 (対象：シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ) マルチ栽培を行う。 (対象：雑草など)	慣行使用回数の20%減
その他の留意事項	水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを行うとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	

ネギ (施設) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であり、窒素の吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤中残存成分は比較的強く制御できる。ネギはリン酸に対し、敏感に反応するため、堆肥施用とともに基肥に十分なリン酸を施用する。また、育苗期におけるリン酸吸収がその後の生育にも影響をおよぼすといわれているため、苗床における施肥にも十分に配慮する。なお、乾燥に対しては抵抗性があるが、過湿には弱いので、深耕して水はけを良好にするとともに根圏を拡大させる必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

連作するとネダニや土壌病害が多発するので、ユリ科作物の過度の連作は避ける。排水と通風を良好に保ち、病害虫の発生を防ぐ。育苗期には雨よけや防虫ネットによる被覆を行い、病害虫防除を徹底する。罹病株や害虫寄生株は本圃に定植しない。本圃では、病害虫の早期発見、適期防除を行い、化学農薬使用の低減を図る。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点に立った投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 2～3t/10a
化学肥料低減技術	基肥は局所施肥(条施等)するとともに、窒素、カリについて追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下  有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬低減技術	B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：ハスモンヨトウなど) 天敵農薬を利用する。 (対象：アブラムシ類など) 微生物農薬を利用する。 (対象：アブラムシ類など) 夏季に太陽熱土壌消毒を行う。 (対象：土壌病害虫、雑草など) 流動性被覆資材を利用する。 (対象：べと病など) 近紫外線除去フィルムを利用する。 (対象：アザミウマ類など) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、雑草など) 開口部やサイドを防虫ネットで被覆する。 (対象：アブラムシ類、アザミウマ類など) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象：シロイチモジヨトウ) 性フェロモン剤による発生予察、誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウ) マルチ栽培を行う。 (対象：雑草など)	慣行使用回数の20%減
その他の留意事項	水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを行うとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	